

WOMAN PRESIDENT

～鈴木麻美子社長と太田みどり元社長～

D 班 明松 佐藤 田中

【はじめに】

私たちは、どこの会社に行くか全く検討がついておらず、手当たり次第に数多くの会社に電話でアポイントを取っていました。しかし、なかなかアポイントが取れなかったのを絞ろうと思い、現在の日本における女性社長数の増加に注目して課題を進めていきました。そして、起業した社長とサラリーマンからの昇格した社長を比較するために二人の社長にお話を伺いに行きました。

【会社紹介】

株式会社 magna

設立 2005 年 4 月

代表取締役 鈴木麻美子

事業内容 イベント事業、出版事業、研修事業

株式会社サリダ・アド

設立 1991 年 8 月

代表取締役社長 赤嶺元紀

事業内容 女性向け求人サイトの運営・転職支援サービス事業・求人情報誌「サリダ関東版」編集・発行、総合広告代理店事業

【社長について】

○鈴木麻美子社長

日本女子大学卒業後、学生時代から行っていた司会などのアルバイトを続けていた。その中で会社からの仕事依頼を断らないために、友人に仕事を紹介するなど仕事を得るために現在の会社を起業した。

○太田みどり元社長

女子美術大学卒業後、広告代理店に就職。学生時代はグラフィックを専攻していた。37歳のときに、1歳の子供を持つ未経験営業マンとして再スタートし、全ての役職を経験したサラリーマン社長として今に至る。この再就職の経験からエイジフリー（年齢やその人を取り巻く環境に関係なく、働く本人のスキルや人間力、仕事に対する意欲を大切にす

ること) がうまれた。

【インタビュー内容】

お忙しい中、お二方とも私たちの質問にとても丁寧に答えて下さいました。たくさんある中でも私たちが特に興味を持った内容を抜粋します。

学生生活について、鈴木社長は学生時代、学校中心というよりアルバイトの方に楽しさを感じていました。社長自身が人前で話すことが好きで、話すことに自信があるということで、楽しい、続けたいと思っていたそうです。そのアルバイトの楽しさと経験が、現在の magnaにつながっています。100%こうなりたい、という人はいませんでした。先輩のいいところをみて努力していたそうです。

一方、太田元社長は広告研究会に所属し、グラフィックデザイナーか美術の先生になるという明確な将来の夢を持って勉強していました。実際に教育実習へ行ったりしましたが、多くの世界を見たい、いろんな人と出会いたい、という理由から、広告代理店を選びました。後悔していることは、英語を勉強すればよかったこと、何かをやり遂げた人の話を聞くことだそうです。

20歳から現在で変化したことについて、鈴木社長は頑張る目的が変わったそうです。昔は自分の欲しいもののために頑張ろう、と思っていましたが、今では社員や、守るべきもののために頑張ろうと思えるそうです。太田元社長は、年齢や役職があがるごとに責任が出てきたそうです。

【私たちにアドバイス】

○鈴木社長

夢がなくても、目の前にある自分が好きなことを選び続けていれば必ずうまくいき、好きなことしか残らない。諦めずにやり続ければ必ず成功する。

○太田元社長

人間力はすごく大事で、いい仕事をする前に人としてどうあるべきかを考える。勉強だけでも、自分さえよければいいでもだめ。それを社会人になる前に身につけ、人徳のある人になること。つらい時は社会のせいせず、自分が変わり行動をおこすこと。大切なのは自分自身であり、目の前のことを一生懸命やること。

【考察・インタビューをして何を思ったか】

最初は、社長になるような方だから学生時代から何か特別なことをしていたのではないかと、思っていました。実際は私たちの生活とほとんど変わらないものでした。

また、二人を比べる目的として挙げた、年齢、学生生活による違いで、起業した社長とサラリーマン社長による二十歳のときの特別な違いはあるのか、ということでしたが、二

人は学生生活において、アルバイト中心と学業中心、と多少の違いはありましたが、共通点として、アルバイトでも勉強でも、自分が好きだと思いを一生懸命やり続けた、ということでした。私たちが出した結論は、社長になるために最も重要なことは、好きなことを一生懸命やり続けることです。私たちでも社長になれるチャンスがあるかもしれないのです。

【最後に】

お忙しい中、私たちのインタビューを快く承諾していただき、多く質問に対して話しを分かりやすく、真剣に答えていただいた鈴木麻美子社長と太田みどり元社長に心から感謝したいと思います。加藤恭子ゼミ登竜門の『20歳の頃』を終えて、私たちは多くのことを学ぶことができたと思います。インタビューをするにあたって数多くの企業に電話やFAXをし、アポイントを取ることから始まり、インタビューした内容をまとめ、パワーポイントやレジメ作りなど、この企画を通じてたくさんの経験をさせていただきました。この経験が無駄にしないように学生生活はもちろんのこと、それ以外のことにも生かしていきたいです。最後にお二人が共通して仰っていた「目の前にあることを一生懸命やる」と言う事を心に留めて、今後の学生生活やゼミ活動を積極的に頑張っていきたいです。また、このような素晴らしい企画を考えてくださった先生や先輩方に感謝したいと思います。